

「公共工事コスト縮減対策に関する新行動指針」

【施策名：1. 工事コストの縮減 ③設計手法の見直し ⑰建設副産物対策】

地盤面設定の工夫と立体駐車場の効率化によるコスト縮減

工事名：平成19-21年度 高知職安建築工事

概要：地盤面を嵩上げ(+0.45m)すると共に、立体駐車場(鉄骨造2階建)の1階部分を半地下形式とし敷地内の駐車場を効率良く確保

効果

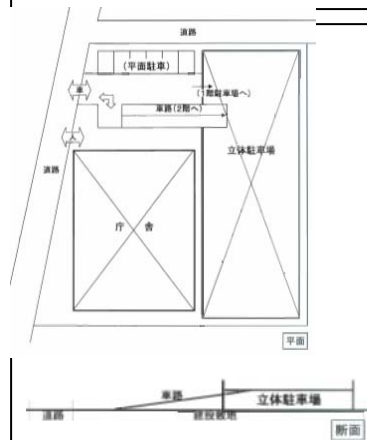
○現状地盤面を嵩上げすることにより、土工事が減少するとともに、洪水対策として効果がある。

土の掘削・残土処分量 830m³縮減、縮減費4,900千円(洪水対策としての防潮堤縮減含む)

○立体駐車場の1階を半地下形式とすることにより、車路(1階及び2階への車の通路)長さが半減し狭隘な敷地内に効率良い駐車計画が可能となり、立体駐車場面積を大幅に縮減。なお、地盤面を上げたことにより、地下部分の施工性への影響は少なくて済んだ。

立体駐車場面積1,025m²→625m²、縮減費33,700千円

○付加価値として、立体駐車場を一方通行形式が可能となり安全面が向上した。また、庁舎の配置を東西に長い計画とすることが可能となり執務環境向上につながった。



立体駐車場

1階＝地盤面

2階＝地盤面+3m

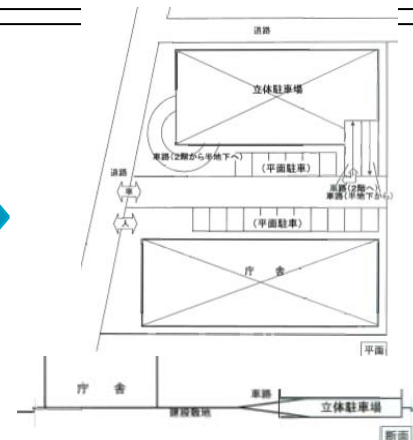
車路長さ約20m必要

車路長さの確保から

敷地に対してL型に駐

車場を配置する必要

がある



立体駐車場

1階＝地盤面-1.5m

2階＝地盤面+1.5m

車路長さ約10m必要

車路は上下への2本必要だが短いため

駐車場が効率良く確保可能

車路の一方通行化が可能

庁舎

執務室を環境良く確保可能